

高校公民プリント（過去問類似）

青年期と現代社会 No.9

名前

得点

/9

問1 伝統的な社会において、子どもから大人への移行を認めるために行われる、元服や成人式などの社会的な通過儀礼を何と呼ぶか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. アイデンティティ 2. パーソナリティ 3. カウンセリング 4. イニシエーション

問2 人々が互いの立場や世代による配慮の違いを乗り越え、対等な立場で対話を行い、合意を形成していくプロセスは、現代社会の課題を解決する上で重要である。ドイツの思想家ハーバーマスの提唱した、互いの理解を求め合う対話を通じて社会の合意形成を目指す理性的行為を何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 道具的行為 2. 目的合理的行為 3. 戦略的行為 4. コミュニケーション的行為

問3 インターネットの普及に伴い、個人のプライバシーや特定の個人を識別できる情報の流出リスクに対する懸念が高まっている。日本において、こうした情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護することを目的として2003年に制定され、民間事業者による取り扱いに関する義務などを定めた法律は何か。 (2018年 全国公立入試 類似)

1. 特定秘密保護法 2. 個人情報保護法 3. 住民基本台帳法 4. 不正競争防止法

問4 青年は、子どもの集団から大人の集団へと移行する過渡期にあり、双方の境界に位置することから精神的な動揺や葛藤を経験しやすい。このような青年期の特徴を「境界人（マージナル・マン）」という概念で説明した、ドイツ出身の心理学者は誰か。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. アドラー 2. ピアジェ 3. フロイト 4. レヴィン

問5 現代の高度資本主義社会において、人々は商品の実用的な機能（使用価値）を求めて消費するのではなく、他者との違いを示すための「記号」を消費していると指摘し、このようなシステムを「消費社会」として批判的に分析したフランスの思想家は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. マッキンタイア 2. アルチュセール 3. ホルクハイマー 4. ボードリヤール

問6 青年期における欲求不満への対処法（防衛機制）のうち、「社会への強い不満や自己の生き方に対する悩みを、小説の執筆や出版といった芸術的な表現活動に打ち込むことで解決しようとする」という事例に最もよく当てはまる心の働きを何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 投射 2. 代償 3. 昇華 4. 逃避

問7 人々を社会的に包摂するにあたり、単に一律の財を分配するだけでは、個人の身体的・社会的状況の違いによって、実際に実現できる生活のあり方に格差が生じてしまう。このように、画一的な支援の限界を指摘し、一人ひとりが「自らが価値を置く生活を営むことができる能力（潜在能力）」の拡大こそが重要であると説いた、インド出身の経済学者は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. ロバート・ノージック 2. ジョン・ロールズ 3. ミルトン・フリードマン 4. アマルティア・セン

問8 現代社会では、進学率の向上や学校教育期間の延長などを背景に、一人前の大人としての義務や責任を一時的に免除され、自己形成に努めながら大人になるための準備を行う期間が認められる。この、青年期に特有の社会的猶予の期間を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. アイデンティティ 2. マージナルマン 3. モラトリアム 4. イニシエーション

問9 自らが所属する集団や民族の文化を絶対的な基準とし、その基準に照らして他の文化を低く評価したり、異質なものとして排除したりする態度や思考様式を何というか。 (2009年 全国公立入試 類似)

1. エスノセントリズム 2. アカルチュレーション 3. ユーロセントリズム 4. カルチャーショック

答え合わせ・解説 No.9

問1	答え 4 イニシエーション	伝統的社会における成員の地位変化を伴う儀礼に関する問い。共同体の一員として、子どもから大人の仲間入りをする際に行われる試練や儀式は、通過儀礼（イニシエーション）と呼ばれる。現代社会においては、このような明確な境界線が薄れ、青年期が長期化する傾向にある。
問2	答え 4 コミュニケーション的行為	フランクフルト学派の第二世代であるハーバーマスは、科学技術の発展に伴って肥大化した「道具的理性」を批判し、他者との対話や理解を目指す「コミュニケーション的行為」の重要性を説いた。世代間や立場による言語行動や配慮の差異を認めつつ、対話を通じて合意を形成していくプロセスは、この行為の具体例と言える。
問3	答え 2 個人情報保護法	高度情報通信社会の進展に伴い、個人情報の不適切な取り扱いや流出を防ぐため、2003年に「個人情報保護法（個人情報の保護に関する法律）」が制定された。この法律は、個人情報の適正な取り扱いに関する基本理念や、民間事業者が遵守すべき義務などを定めており、個人の権利利益の保護を図ることを目的としている。
問4	答え 4 レヴィン	青年を子どもと大人の過渡期にある「境界人（マージナル・マン）」と位置づけたのは、ドイツ出身の心理学者レヴィンである。ルソーは青年期を「第二の誕生」と呼び、ハヴィガーストは青年期の発達課題を分類・整理した。
問5	答え 4 ボードリヤール	現代社会における消費のあり方を分析したフランスの哲学者・社会学者である。彼は、モノが持つ実用的な機能（使用価値）よりも、他者との「差異」を示す「記号」としての価値が消費の対象になっていると主張した。この記号消費のシステムにおいては、消費社会に対する批判や反抗すらも、新たな記号（個性や反逆のシンボル）としてシステム内部に回収され、消費の対象になってしまうと指摘した。
問6	答え 3 昇華	社会的に受け入れがたい衝動や満たされない欲求を、芸術や学問、スポーツなどの社会的・文化的に価値の高い活動に転換して解消しようとする心の働きを昇華という。小説の執筆や出版といった芸術活動に打ち込むことは、この防衛機制の代表的な具体例である。
問7	答え 4 アマルティア・セン	画一的な資源の分配だけでは、個人の多様なニーズに対応できず、真の共生や包摂は達成できないというジレンマに対し、個人の多様性を前提とした上で、各人が望む生き方を選択できる具体的な能力（ケイパビリティ）の向上を重視するアプローチを提唱しました。彼は、開発や福祉の目的を単なる経済成長ではなく、人間の自由の拡大に置いたことで知られています。
問8	答え 3 モラトリアム	現代社会における高学歴化や社会構造の複雑化に伴い、社会に出て自立するまでの期間が長期化している。このため、大人としての社会的責任や義務が一時的に猶予され、自己のアイデンティティを模索し、社会に適応するための自己形成や準備を行う期間が与えられる。これをアメリカの心理学者エリクソンは「心理社会的猶予期間」と名付けた。近年では、この期間が長期化する傾向や、大人への移行を拒む心理的傾向なども指摘されている。
問9	答え 1 エスノセントリズム	自民族中心主義とも呼ばれるこの概念は、自文化の優位性を前提に他文化を歪めて捉えるため、国際摩擦や偏見、差別の原因となる。これに対し、それぞれの文化に優劣をつけず、独自の価値を認めようとする態度を文化相対主義という。